

日光 雲竜溪谷 アイスクライミング

小暮

【日時】 2011年2月5日(土)～6日(月)

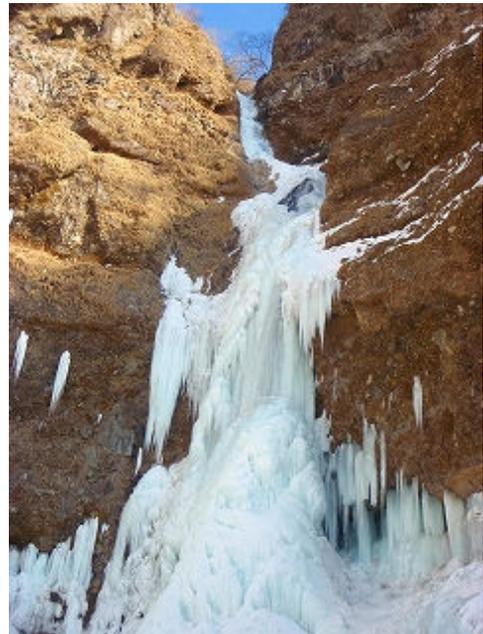
【メンバー】 2/5-6 :PL小暮、笹川

2/6のみ:PL田邊、高橋、飯田、岩田、福永

山と溪谷の表紙を見れば、見覚えのある氷柱。まさしく雲竜溪谷の氷であった。ここ数年は田邊さんが中心となって、地元消防の訓練週週の2月1週目に毎年アイスクライミングの計画を立ててくれている。今回は、田邊さん他のメンバーは日曜日帰りとのことであったが、せっかく土日で山に行ける週末であるので、パーティは別にして私と笹川は2日間の計画である。できれば初日に雲竜瀑を登ってみたいと考えていた。

雲竜瀑は氷結があまり良い滝ではないらしく、過去のWeBの記録を見ても滝の難易度よりは氷結の悪さで苦勞しているようであり、氷結が悪くて敗退ということがかなり多いようだ。今年はかなり冷え込みもあり、WeBのニュースに掲載された消防の訓練時にも、雲竜瀑は見事な氷結具合と確認していたのでおおいに期待して入山した。

除雪された林道に車を乗り入れ、車止めから歩き出す。朝一番の日の出と共に歩き始めたのだが、朝の早いハイカーが次から次へと先へとやってくる。今回のアプローチは沢沿いのトレースではなく、林道を素直に進むルートをとった。沢から離れ次第に高度を挙げていく林道に道が違うのではないかと何度も不安になるが、見覚えのある展望台が見えてホッとした。沢沿いの道と違って渡渉も無く歩きやすいコースである。展望台でテントを設営し、急いで雲竜溪谷の氷の回廊へと歩を進める。どうやらその後の急激な暖気が入ったせいか、氷がだいぶ融けたらしく沢の水量は多い。左岸の氷瀑も氷結が悪くて落ち口には岩が見えているうえに、沢の水量が多くて取り付き付近の足場が狭い。ここはあまり登る気にならない。



雲竜瀑

初日の目標の雲竜瀑へと急いで向かい、手前の5mほどの氷をフリーで抜けるが、あまりの薄さにバイルを刺すと裏側に抜けてしまう。肝心の雲竜瀑は、下段は右側が薄く中段は

融けて穴が空いている。先週の立派な氷瀑と同じ滝とは思えない。1週間でこんなにも融けるものなのかと愕然とする。見る限り氷結は甘く、私はとても取り付く気にはならないが、



そこには先行パーティが居てザイルを結んで登る準備をしている。我々は順番待ちをするでもなく、登るのは諦めて先行パーティのお手並み拝見でしばらく見学させてもらうことにした。下段のやや立ったところをリードしていくが、途中でクライマーは登るのをやめて悩んでいる様子。しばらく見ているとクライムダウンしてきた。登っている時にもバシッという大きな亀裂の入るような音が

がしたりしていたので途中で止めにしたのだろう。まあ普通そうだよなと納得。目標にしていた氷が登れず、下部左岸の氷瀑も氷結が悪いのでどうしようかと思っただが、友知らずの氷柱は幸いにも氷結が良いようなので、そちらへと向かう。

友知らずは、以前に訪れたときよりも立派な氷柱となっていて、左から1本目と2本目は登ることが出来そうだ。完全に垂直のため、かなりのパーククライムになりそうだ。本日は、見た目にも多少は楽そうな左から1本目の氷柱(燕岩の氷柱)に取り付く。

下段はバーチカルながらも、モコモコの氷が手掛かり足がかりとなる。中段から上が核心。ツララ氷のためか足が切れる。1アックス伸ションで何とか上に抜けてトップロープを構築する。VI-級はあるだろう。二人で交代でトップロープを楽しむが、回転が速くて腕はパンパンだ。周囲は、ギャラリーと化したハイカーが次から次へと現れてまるで観光地のようであった。

翌日は、田邊パーティ5人が合流。ハイキングが主目的の福永さんもアイスお試しでわいわいとクライミングを楽しむ。この日は、前日に登った氷柱の1本右の氷柱、友知らず入口の2段30m滝、更に左のナメ滝と3箇所分散して終日楽しむことが出来ました。(福永さんの記録参照)

【行程】

2/5 林道終点～展望台 BC、友知らずにて IC

2/6 友知らずにて IC、BC～林道終点

【地図】 日光北部



燕岩の氷柱

日光

雲竜溪谷

福永

【日時】 2011年2月6日(日)

【メンバー】L田邊 SL高橋 飯田 岩田 福永

雑誌の表紙を飾り、その氷柱群に魅了されていた私はハイキングのつもりで参加表明をしました。ハイキングだと一人暇だろうからとの優しい一声で、アイスクライミング体験をさせて貰えることになりました。

2月6日(日) 晴れ

1時間歩くといきなり現れる青い氷の世界。まるで神殿のよう。すでに何組かが氷壁にとりついていました。初めてみるアイスクライミング。好奇心旺盛な私は内心ワクワクです。

短いルートに岩田さんがロープを張ってくれました。バイルの振り方をざっと教わり、さあ足を出そうとすると爪は思うようにかかからない。思っていた以上に難しい。バイルであちこちの氷を破壊しながら恐る恐る取りつきます。道具のせいにしてしまいましたが、最初から出来る訳がないと開き直り、何とか5mを3本登ることが出来ました。

前日から来ている小暮さんチームと他の皆さんは高い氷柱に取りついてます。沢山のハイカーが入れ替わり立ち替わり来ては、アイスクライマーが格好の被写体になっていました。私はハイキングの目的も達成すべく雲竜瀑見学もし、大きなプレッシャーを感じることもなく楽しい1日は過ぎていきました。このような機会がなければアイスクライミングをやろうとも考えていなかった私ですが、先輩達のカッコいい道具を見ていたら購買欲がムクムクと頭をもたげるのでした。

【行程】

2/6 車止め(7:30)～雲竜溪谷(8:30)～車止め(15:00)

【地形図】日光北部

